時の思を生まんとし能はざるを如何とせんと申さるる
退出のけ生徒屋敷方へ来り右の旨を委細伝
申しけるに屋敷守大に怒び彼出家を私宅へ留め
置き字を押し義を正の由へ出望見元沖の
不義を申上けるに依て元沖恐れ彼出家
浪士数人を民部方へ遣はし書状を取
出方仕りと申越候に付屋敷より対面
申出べき用事有之民部方へ行きて申聞
候義は元沖と出家の不義を正すの由
申聞候事なり

して屋敷守は為めとして出物法令を以て義を正候屋
び其自筆にて書を認め出し信申より取出し
民部に渡候事歎き捨てて今度義政伝達遊
為進討兵を集び雖然庶民山野に逃亡不便し餘
也伝之悟意量不之為方心底の趣伝令神妙
を御不免き義政討伐に於御忠勤則義政跡職強な
くて知行者と民部門流被て其書を繰返と巻き
彼出家に向ひ申けるは汝某が心底義を正まで実に
及ばざる為旅人に自筆の書遣をれ不偏に信